

『古事記』 『万葉集』 の表記と表現

奥田 俊博

書	附
	録
	目
	次
	目
	録

『古事記』『万葉集』の表記と表現 目次

序章 『古事記』『万葉集』の表記における問題点

第一節 研究の対象と先行研究……………六

一 研究の対象……………六

二 先行研究（1）——『万葉集』を中心に……………八

三 先行研究（2）——『古事記』を中心に……………一七

第二節 表記研究における問題の所在……………二五

第一章 正訓字の様相

第一節 『古事記』における和化された字義を担う字……………二九

一 本来的な字義との不一致について……………二九

二 和化された字義を担う字の用法……………三二

三 狭義の正訓字と看做すべき字……………三八

四 狭義の正訓字と和化された字義を担う字……………四三

第二節 『万葉集』における和化された字義を担う字……………五六

一 和化された字義を担う字の用法……………五六

二 字義の転化の様相……………六〇

三	他の正訓字との併用……………	六三
第三節	和化された字義を担う字の成立……………	六九

第二章 正訓字と借訓字との間の揺れ

第一節	正訓字の認定——『古事記』の「画」の用法を中心に……………	七六
第二節	『万葉集』訓字主体表記卷における懸詞の表記……………	八四
一	『万葉集』の懸詞の表記……………	八四
二	含蓄型の懸詞の表記……………	八九
三	連鎖型の懸詞の表記……………	九六
四	懸詞の表記の様相……………	一〇四
第三節	『万葉集』における「去」の用法……………	一一五
一	——「ユク」「ヌ」の揺れについて……………	一一五
二	「ユク」「ヌ」の訓の揺れ……………	一一五
三	複合動詞後項「ユク」と助動詞「ヌ」の意味的な関係……………	一二七
四	「去」の表記の性質……………	一三五
五	「去」の訓みの基準……………	一四三

第三章 表意性を有する仮名（借音字・借訓字）の問題

第一節	『万葉集』における表意性を有する仮名……………	一五九
一	表意性を有する仮名の類型……………	一五九
二	歌の内容に対応する仮名の用法（1）―熟字の例を中心に……………	一六五
三	歌の内容に対応する仮名の用法（2）―比喻となる用法……………	一七〇
四	歌の内容に対応する仮名の用法（3） ―歌中の用字と意味的に対応する仮名との関わり……………	一七五
第二節	表意性を有する仮名と伝達……………	一八三
終章	『古事記』『万葉集』の表記と表現―まとめと将来の課題―	
第一節	和語の表記の様相……………	一八九
一	正訓字と仮名が有する性質……………	一八九
二	和語の表記の構造……………	一九二
三	和語の表記と表現……………	二〇〇
第二節	将来の課題……………	二〇四
初出一覧	……………	二〇八
参考文献	……………	二一〇

※注は、各節の末尾に掲げた。